

「戦争法案ゼツタイ廃案」の声が全国にとどろいています。

8月30日12万人が国会を包囲した「国会10万人全国100万人大行動」は、全国1000カ所でもとりくまれ、国会騒然・列島騒然の状況をつくりだしました。大学生・高校生・青年、若いママパパ、そして中高年の「オールズ」や「ミドルズ」も。世代を超え、党派を超えた運動が、安倍政権をおいつめています。

廃案まで、あと一歩です。あなたの声で、「戦争する国」への道をストップさせましょう。



国内外の世論を受けて、「植民地支配」「侵略」「反省」「お詫び」などの言葉を入れたものの、「日本が国策を誤り」「植民地支配と侵略」を行ったという認識は示されていない「安倍70年談話」。とても、「村山談話」を引き継いだとは言えません。国内外から批判の声がわき起こっています。再び、日本が加害国になる道を決して歩んではなりません。過去に誠実に向き合い、憲法9条を生かすことこそ、「戦後70年」にふさわしい日本政府としての決意です。

「安倍70年談話」に
国内外から批判あいつぐ

戦争法案 (安保法案) ゼツタイ廃案!

私たちは
戦争のない未来を
選びます

違憲性と危険性が次々と明らかに。**ポロポロの戦争法案**は廃案しかない!

核兵器も運ぶ?! 兵站活動

米軍への武器・弾薬・燃料・食料などの輸送や供給をおこなう兵站(へいたん)活動の危険性がつぎつぎと明らかになっています。「戦闘地域」にまで出かけて、作戦中の米軍機への給油をおこなうなど、兵站活動は、憲法が禁ずる「武力の行使」そのものです。また、兵站活動として、非人道的な兵器の輸送、「核兵器の輸送も法文上は排除しない」と防衛大臣が答弁しています。兵站への民間人の動員も明らかに。こんな危険なことは、ありません。

「軍」の独走?!

国民に隠して、戦争体制が着々と準備されています。戦争法案が成立していないのに、自衛隊内では編成計画など法案具体化がすすめられていました。8月12日、沖縄の米軍ヘリ墜落事故で、対テロ特殊部隊の日米共同訓練の実態が明らかになったように、戦争法案を先取りする地球規模の日米共同訓練は、すでに始まっています。これでは、戦前の「軍の独走」と同じです。いつか来た道は、許されません。

中国の脅威も、ホルムズ海峡封鎖も「ない」

審議のなかで、岸田外相は「日本政府は、中国を脅威と見なしてはいない」と答弁。また、イラン政府は「ホルムズ海峡封鎖などありえない」と言明しています。では、何のために戦争法をつくるのか、立法事実を説明できない状態です。

「法的安定性は関係ない」と、首相補佐官が暴言

「(憲法解釈も) 必要に応じて変わる」「法的安定性で国が守れますか」などと、立憲主義を否定する暴言を発した礒崎首相補佐官。それを罷免しない安倍内閣。戦争法案そのものが法的安定性を欠くことが明らかになっています。

憲法共同センター (戦争する国づくりストップ! 憲法を守り・いかす共同センター)

〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館 4F
TEL 03(5842)5611 FAX 03(5842)5620
<http://www.kyodo-center.jp/>